

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0894300011		
法人名	ウエルシア介護サービス株式会社		
事業所名	さとのこハウス境		
所在地	茨城県猿島郡境町38-3ウエルシア関東2階		
自己評価作成日	2021年9月9日	評価結果市町村受理日	2022年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JirgyosyoCd=0894300011-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2021年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームを施設ということではなく、自宅で生活している感覚を持ってもらえるよう、安心し落ち着いて暮らして貰えるような環境作りや雰囲気作りを心掛けて支援しています。また、ご利用者の入所期間が長くなり、ADLの低下が見られるので、日々の中での生活リハビリ(食事作りや掃除、洗濯物たたみなど)を中心に行ってもらい、極力維持出来るよう支援しています。地域との連携については、コロナ禍ということもあり、ほとんど外出出来ず、ボランティアなどの訪問も中止している状況になっているので、外部との接点はあまり出来ない状態です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

商業施設の2階にあり、地域密着という意味では地域住民との交流の機会が沢山あるともいえる。ドラッグストアチェーンが展開する介護事業であることから、感染症対策や危機管理など介護に必要な行動マニュアルがしっかり示されている。各事業所の管理者を集めたミーティングを開催している。管理者は、職員の資質向上が介護の質に反映されると考え、職員一人一人の意見を尊重しながら、リーダーシップを発揮している。また、すぐに回答を示すのではなく、職員に考える習慣がつかうような働きかけをしている。職員間のチームワークもよく、前向きな姿勢で取り組んでいる様子がヒアリングで確認できた。*** 新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。**

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「働くスタッフのために・ご利用者の幸せのために・地域と社会の貢献のために」という、当社の運営理念を下に、意識しながら業務を行っています。また、毎週月曜日に職員で唱和し、確認しています。	経営母体の3つの柱を理念として掲げ、日頃のケアに携わっている。職員個別の目標を定め、自己評価後に管理者との面接を経て、本部の評価を受ける。理念の実践の為に、職員の資質向上も必要と考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスのため、外部との接点を極力していない状況となっています。	地域との交流が絶たれている中、職員は利用者がストレスをため込むことがないように工夫をしている。敬老の日に職員が手品を披露し、ホーム内運動会ではパン食い競争、ハロウィンでは仮装を楽しんだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスのため、実施出来ていない状況。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスのため開催を中止し、境町と地域包括支援センター、家族などに報告のみ行っている。	対面式の会議は控えるよう役場からの通知があり、書面での報告となっている。家族からは労いの言葉をいただいた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に行っている、グループホーム連絡会議は、コロナウイルスのため中止になっているが、境町の福祉課とは相談事などある際は、頻回に行き、情報交換を図っている。	相談事や情報収集で頻回に足を運び、役場とは良好な関係もできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3月に1回身体拘束廃止委員会を開催し、日頃業務で感じていることなど、何でも意見を聞くようにし、検討している。また、年に2回は勉強会を行っている。	身体拘束廃止委員会を定期的に開催し、利用者の実例を取り上げて職員からの意見や提案をもとに話し合い、合意を得た上で業務に反映する。グレーゾーンと思われることも取り上げ、気づきや考える事を大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを整備し、定期的に勉強会を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナウイルスのため、本部で行っている研修は中止となり、施設内での勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前にご利用者本人、家族に利用契約書・重要事項説明書を説明し、納得頂いた上で入所している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、気付いたことなど意見を頂いている。また、随時ご家族と意見交換を行い、ご利用者・家族などの要望を聞き、ケアに活かしている。	意見箱設置しているが、直接意見をもらう事が多い。家族には広報誌でホーム内の様子を知らせている。利用者の希望を家族と一緒にサポートするという考え方で取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回営業所会議を開催し、部長や施設部門長なども参加し、職員の要望や意見を聞き、情報交換を図っている。また、管理者は月1回管理者同士の会議にzoomで参加し、意見交換を図っている。	職員から『おしぼり』について検討したいとの提案があり話し合いを設けた。使い捨てと、洗濯して繰り返し使う場合のメリット・デメリットをいろいろな方面から考えた。現場からの意見は日々のケアに非常に役立っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の考えややりたいこと、悩みや業務体制など、日々の中で意見を聞き、相談しやすい雰囲気作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部で定期的に行っている勉強会はコロナウイルスのため中止している。外部研修は、zoomにて参加している。また、施設内で定期的に勉強会を行い、業務に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回営業所の管理者とzoom会議を行い、情報交換を図っている。また、定期的に同町内のグループホームの管理者と連絡を取り合い、情報交換を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者一人一人に担当者を付け、定期的にあセスメントを行い、ご利用者の考えや悩みなど聞きながら、より良い環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の話し合いや契約時の際に、現在の生活状況や要望などを聞き、なるべく沿えるようサービスを提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問や契約の際に、意見や要望などを伺い、サービス利用時の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と職員の関係ではなく、一緒に生活している家族として、信頼関係に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の中で、ご利用者が希望していることや要望などを家族に相談し、なるべく出来るよう情報交換を図っている。また、家族からの希望なども極力実行出来るよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスのため、馴染みの場所には行けていない状況。しかし、親戚や友人などに面会してもらい、直接会うことは出来ないが、ガラス越しや電話などで関係性を築けている。	家族は買い物帰りに面会が可能であり、お彼岸やお盆の墓参りには家族と出かける方がいる。1階が商業施設という立地のメリットを積極的に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクや体操などに参加して頂き、他利用者との交流を図っている。また、居室に籠りがちになるご利用者には、なるべくリビングで過ごしてもらえよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	買い物などで入所されていたご利用者の家族などと会う際は、立ち話などし、交流が図れている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人一人に担当者を付け、定期的にはアセスメントを行い、ご利用者の考えや悩みなど聞き、月に1回カンファレンスを開催し、ご利用者や家族などの要望をなるべく聞くことが出来るよう対応している。	カンファレンスで情報の共有をし、本人のやりがいを作るための工夫をしている。利用前に日記をつけていた方は、その習慣を継続している。つけた日記は家族に定期的に見てもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に実調を行い、本人・家族の暮らし方や環境を把握し、出来る限り自宅に近い形で生活出来るよう、家具や写真など持ち込んで頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録やバイタルチェック表、職員間の申し送りノートを活用し、日々の状態など情報交換を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族が面会の際に、家族の希望や要望などを聞き、ご利用者にはカンファレンスから日々の課題などを抽出し、それらを具体的な内容でケアプランの作成を行っている。また、達成出来ているかモニタリングを行っている。	前回上げた課題への取り組みは出来たと思うが、引き続き職員からの意見を聞きながら日々のケアに役立っているかを検証していきたい。情報の活用化のために情報収集→整理・課題抽出→実行へとつなげている。担当者が中心となって状態を把握し、プランに反映させる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスや個人の記録、職員間の申し送りノートを活用し、気付いたことなど情報交換しながらカンファレンスを行い、ケアプランの見直しを行っている。		

茨城県 グループホームさとのこハウス境

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナウイルスのため、外出などはあまりで来ていないが、施設内でのサービスで本人・家族の希望などに沿えるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスのため、現在ボランティアなど中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回掛かりつけ医に往診に来てもらい、問診や血液検査など行っている。また、看護師と連携を密に行い、職員間で申し送りノート、往診記録表などを活用し、情報交換を行っている。	月1回の往診で体調管理をしている。体調変化があるときはいつでも相談が出来、迅速に対応してもらえる。夜間も含め24時間対応可能である。診療の記録は独立した綴りになっており、職員間は申し送りノートを活用。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤職員で看護師が勤務しているため、看護師中心に掛かりつけ医と情報交換が図れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院などされた場合は、定期的に面会に行き、看護師から現在の状態を聞き、退院に向け準備している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の意向を入所当初に確認し、看取り期になって再度、意向や希望など家族に確認している。また、掛かりつけ医と話し合いを設け、状態の変化時の対応や夜間の対応など確認し、いつでも対応出来るようにしている。	終末期対応についての指針がある。看取り期の介護のマニュアルがあり、どの時期に何をすべきかの行動指針がしっかりと示されている。契約時に看取りに関する同意書ももらっているが、その時がきたら再度家族に確認し、ターミナルケアのプランを作成して取り組む。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本部で定期的に救急救命の講習を行っているが、コロナウイルスのため、現在は中止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災訓練や風水害時の災害マニュアルを整備し、備蓄品も整備している。(消防署の立ち合いは、コロナ禍のため中止している)	火災時の避難訓練を行っている。自然災害訓練も検討している。2階フロアは避難場所としても活用できるので、避難受け入れも検討中。常総市の水害を受けて、広域的な防災計画を作成中。職員の通勤路も含めて検証している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が上から物を言わないことは当然のこととして、あまり丁寧過ぎず、そして馴れ合いにならないよう心掛けて対応している。	言葉や態度について、特に尊厳を損ねていないか注意している。かしこまりすぎず、なれ合いにもならないよう、それぞれの職業や生きてきた背景を参考に声掛けの工夫をする。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、ご利用者の希望・要望に出来る限り沿えるよう心掛けてサービスを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人一人のペースで生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ前は1階ウエルシア薬局と一緒に買い物に行っていたが、現在は、ご利用者に頼まれた物を職員が買い物に行っている。(化粧品など)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食業者が立てたメニューに沿って、出来る限りご利用者と一緒に食事作りを行い、盛り付けや下膳などを行ってもらっている。また、おやつ作りやイベント時のイベント食など頻りにメニューに取り入れ、食の楽しみを持ってもらっている。	食材は業者委託で職員が調理をする。利用者が手伝う時もあり。毎月、お楽しみメニューがある。おせち料理などの行事食も取り入れられ、利用者の希望も取り入れて、食事を楽しめるよう工夫している。カウンターキッチン内で利用者が手伝う事もあり、コミュニケーションが取れる場ともなっている。週1回(日曜日)、おやつを手作りしている。	

茨城県 グループホームさとのこハウス境

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者一人一人に合った食事形態で提供し、食事量・水分量を毎日チェックしている。また、状態沿って介助も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で行えるご利用者に関しては確認のみ行い、介助が必要な方に関しては、一部介助または全介助にて対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者一人一人の排尿間隔を把握し、なるべく失禁の無いよう声掛け・誘導を行っている。現在、オムツ2名、リハパン4名、布パンツ3名となっている。	排泄パターンを把握している。布パンツにパッドをつける方もいる。声掛けをしながら布パンツ使用を継続できるように工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然排便出来るよう、毎日身体を動かしたり、入浴時にお腹をマッサージを行っているが、それでも排便が見られない時は下剤を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に最低2回入浴され、時間帯はなるべく身体が冷えないよう午後から入って頂いている。また、入浴拒否が強い方は、次の日に変えたり、声掛けする職員を変えたりし対応している。	ゆず湯、しょうぶ湯の他、入浴剤で温泉気分など味わっている。浴槽の湯は1人毎に変えているので、一人ひとり、好みの湯温にできる。入浴剤は週末にイベント湯として使用する。着替えは職員と一緒に選んで準備する。入浴は本音を聞けるチャンスでもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう、適度に休息してもらいながら過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時、薬剤師にも同行してもらい、服薬に関する説明や注意点など説明を受けている。		

茨城県 グループホームさとのこハウス境

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや洗濯物たたみ、掃除など、出来ることをなるべく行って頂いている。また、昔の趣味なども自宅より持って来てもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスのため、外出は控えているが、お盆やお彼岸など、お墓参りなどの外出は行って頂いている。	密状態を避けるため、1階店舗での買い物は控えているが、空きスペースで歩行訓練をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は、管理者が金庫で管理している。買い物などの際は、その都度金庫から持ち出し、記録し、家族へ報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	連絡を取りたい場合は、随時取れるよう対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、レクで作成した作品を季節感を感じて頂けるよう掲示している。また、ご家族の写真や手紙なども飾りつけしている。また、ご利用者の意見を聞きながら、リビングの家具の配置などを変え、気分転換を図っている。	和やかな雰囲気。リビングでは利用者が好きな音楽を流し、穏やかに過ごしている。職員と気軽に立ち話する光景も見られた。感染症対策もしっかり行い、動きやすい様に片付けられている。本社から抜き打ちで環境チェックがあり、最高ランクの評価をもらった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い友達が偏らないよう、適宜席の配置を変えて、ご利用者が孤独を感じないように配慮している。		

茨城県 グループホームさとのこハウス境

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用している家具や家電などを持ち込んでもらい、慣れた環境で過ごして頂いている。また、家族の写真なども持って来てもらい、落ち着いて生活している。	クローゼット、洗面台、ベッドと簡単な引き出しは備え付けになっている。お誕生日会の写真や家族の写真が飾られたり、机とイスを持ち込み、毎日机に向かって日記をつける方もいる。それぞれが落ち着ける自由な空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の出来ることを把握しながら、安全に生活して頂いている。		

(別紙4(2))

事業所名 : さとのこハウス境

目標達成計画

作成年月日 : 2022年1月18日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	ご利用者様が「こうしたい。やりたい」と思っているも、集団生活になってしまい希望に添えないことがある。また、職員の勤務体制で生活の流れが決まってしまう部分がある。	ご利用者様の希望が叶えられるよう、集団の中動くのではなく、個々としての考えが尊重されるよう業務を改善していくよう工夫する。	自分から積極的に考えなどが伝えられないようなご利用者様の希望や考えなどを聞き取ることから始め、その希望に沿えるような勤務体制だったり、物事だったり叶えられるよう職員や家族と共有していく。	12ヶ月
2	48	今まで生活して行ってきたことを、施設では十分に発揮出来ていない。	ご利用者の出来ることを見極め、日々の生活の中で積極的に活用出来るよう支援していく。また、役割を持ってもらうことで、責任感ややりがいなどを持ってもらう。	職員全員でご利用者様の出来ることや能力を把握し、何が出来るのか、何がしたいと思っているのか、好きな物は何なのかをもう一度見直す。そして、今まで行ってきたことを責任を持って行って頂き、日課として意識してもらう。	12ヶ月
3	22	一度施設に入所してしまうと、今までの人間関係などが絶たれてしまうことが多い。施設に入所したことで、面会に来ることに遠慮してしまっている。	ご利用者様に気軽に面会出来るような雰囲気作りを行う。	行事の際や誕生日会など行う際は、ご家族やご友人などお誘いし、施設に気軽に足を運んでもらう。何度も面会に来るうちに、遠慮なく面会に来てもらえる。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。